

2021年6月27日

村落共同体について

少し前の話題に村の復活を述べた。復活と言っても昔の村を再現することではない。行政単位を昔の村レベルで行うことが必要であることを述べた。

実際に現在の行政単位では、個人が行政に参加できない。現状では選挙によって代表者を決め、この代表者が個々人の意見をまとめて代弁する。システムとしてこれは現状では最良の手段かも知れない。しかしながらあくまでも代表者の意見であって個々人の意見とはならない。また行政の執行も個々人の思うようには届かないのが現状と思う。そこで村レベルでこのシステムを完結するように動くためには村レベルの人口が丁度いいのではということを書いた。

では村の形成はどのようなものだったのだろうか？我々人間は一人では生きられない。動物と同じで最初は家族単位で、しかも雄と雌という形で子孫を残すことから始まる。家族は両親、子供を含めると5～6人位の構成となる。人の子どもは一人前になるまで20年ほど親の元にいることになる。人が2人以上存在するとたとえ家族間でもルールができる。これが最小単位の法律であろうか？こうした家族が恐らく周囲に何家族かが形成され、最初はほとんど独立して行動する。しかしながらまもなく食糧を得るための場が重なり、家族間でのルールを形成するに至る。食糧を得る方法はいずれも同等である。果物、穀物を得る場所、動物を狩る狩場、等家族間で領域を確保すると同時に、重複する場所ができ、やはりルールが生じる。一方では共同で耕作地を作り、安定して生きるために、狩猟場を確保し、数家族が生きていく方式を確立する。こうして数家族が共同で食糧確保の方式を確立することになる。当然子供を作るのも近親婚から他家族間の婚姻が進む。こうして数十家族が集まることにより、村としてのまとまりが形成される。

一方で宗教も共有されるようになり、岩陰などに自然神をまつる領域が形成されたほぼ自然崇拝であったろう。神社の始まりである。当初はある領域を区切って神域と俗界を隔てていたのだと思う。こうして神社の周りに、その神域を共有する人々が集まり、この部族の中心地となる。たいていの村はこうした神社(当時はまだ今のような建屋はなかっただろう!)を中心にして家族の集団、村が生じる。村のルールは村人全員がこの神社周辺に集まり、ルール作りを初めとして、神を祝う祭礼などが執り行われていただろう。この村レベルの集合体は農耕、猟場を形成するに際して、人力を集結して作業を行い、また土器を初めとした生活用具を形成する集団も形成されてきたと考える。いわゆる器具形成を得意とする技術者集団が形成される。こうして村の中での機能分担も始まったと思われる。人はこうした集団の中で家族を支え、子供が成長するおよそ20年を共有する。子供が成長し別の家族集団を作ることにより村の人口は増加し、村の機能も多様化する。村の規模が大きくなるとこの村の集団は分割され、それぞれの集落を形成する。

ではこのような村の規模はどのくらいなのだろうか？先に述べた協業作業を行うためには、また村の中でこの作業を完結するためには、道具を作る集団としては100人前後、この100人前後で工作物を共有できる人数は1000～10000人程度だろう。また河川の改修、食糧を確保して互いに食糧の融通をするためにも1000～10000人程度が限界と思われる。またのちに現れる神社、これを守る森林の整備をするにも同様な人口が必要と思われる。このような村間の安定な存続のためには、村の共有する領域が重ならないよう管理する機構が生じる。こうした村が集まってのちに国として成り立つのだろう。先に述べた村の復活はこの村レベルで行政を行うことであり、なかでもエネルギーの供給、消費もこの村の中で地産地消を考えることである。すなわちエネルギーの供給源は村の中で完結させる。この規模では原発はいらない。村のエネルギー供給が滞ったときには、現在のインターネット方式に見習って村間でのやり取りをするシステムを作るのが良いと思われる。エネルギーの地産地消なのでエネルギー供給施設も村の内部で形成する必要があり、村の中で必要な方式を採用すればよい。現在のように東京

で使うエネルギーを福島原発で生成することなど無意味なことと考えられ、10000人レベルに供給できるエネルギー生成方式を目指せばよい。今注目を浴びる自然エネルギーでよい。幸い日本には水力、地熱、風力等、豊富な自然エネルギーが存在する。水車等は今まで使われてきた最も多様化された自然エネルギーであり、これも電力に転換すればよい。火力発電でもよい。勿論せ旧関係資源は有限と言われているが、過去に言われたほど短期の枯渇はないと思われる。CO<sub>2</sub>を発生しない方法も日本では可能であろう。最もCO<sub>2</sub>が追及温暖化に関係するとも思えないが！食糧もまた斯くのごとしである。村を超える大規模な灌漑工事など関係する各村落が労力を供給すればよい。この村間の調整はいわゆる国となるが、あくまで主体は村落共同体が担う。さらにいくつかの課題も生じると思うが、村単位で解決するのが良いのではないかと考える。現在の社会もこうした村レベルで再組織化してみてもどうだろうか？